

文化の違い

— 12日間のオーストラリア生活を通して —

山田ゆり

私の目標「できるだけ多くの文化の違いに触れ、そこから学ぶこと」

私は12日間、派遣生としてオーストラリアに行きました。スリランカ出身の4人家族のもとでホームステイし、2日間は現地の学校にも通いました。

私は以前アメリカに3年半住んでいた経験があります。その経験を活かして今回は、日本・アメリカ・オーストラリア・スリランカを、自分自身の体験を通して比べました。

1. 家族 — ホストファミリーとの10日間



スリランカ出身の4人家族

10日間、一緒に食事をしたり、会話をしたりしながら生活しました。

家族みんなで過ごす時間や、家族同士のつながりの強さが印象に残りました。

日本やアメリカと比べることで、「家族を大切にする」という価値観にも、さまざまな表し方があると気づきました。

2. 食事 — 毎日の「当たり前」に文化が表れる



スリランカ料理を食べる中で、日本とは違う味付けやスパイス、食べ方を体験しました。

アメリカ・オーストラリア・日本と比べると、何を食べるかだけでなく、「誰と食べるか」「食事をどんな時間として過ごすか」にも文化の違いがありました。

毎日の食事の中にも、その国の文化や家族の価値観が表れていると感じました。

3. 英語 — 同じ英語圏でも違う



アメリカに3年半住んでいたため、アメリカ英語には慣れていました。しかしオーストラリアでは、発音やイントネーション、単語や表現の違いを感じました。

現地校にも2日間通い、実際にオーストラリアの生徒と交流しました。

「同じ英語」でも、その国の文化や歴史によって違い、英語を学ぶことは、文化を学ぶことでもあると実感しました。

4. 日本の文化を伝える側になって

現地の人から「日本ではどうなの？」と聞かれ、日本の食事や学校生活、文化について説明する機会がありました。

外国の文化を学ぶために行きましたが、日本の文化を説明する中で、改めて日本の魅力に気づき、誇りを感じるようになりました。

これからは、外国の文化を学ぶだけでなく、自分自身が日本の文化についてもっと学び、自分の言葉で伝えられる人になりたいです。

『文化の違いを知ることは、相手を知り、自分を知ること』

これから先も、違いを楽しみ、自分の文化にも誇りを持って交流していきたいと思います！！

～ダボ滞在を終えて、これからの自分～

私はこの 12 日間で、多くの大切な経験をしました。ホームステイでの文化の学び、学校生活での人との関わり、全てが忘れられない大事な思い出です。予定通りに進まなかったこともあり、多くの人に感謝を伝えま

す。

この研修で私は新しく学び、それを広めようということを意識しました。今までアメリカの学校や日常生活、日本の文化や歴史など、たくさん話してきました。会話の中で知る、オーストラリアとスリランカの文化はすごく面白かったです。

帰ってきて、多くの人に私が経験したことを話し、共有しようと思います。きっとこの 12 日間でスリランカの文化も知ることができたのは私だけだったと思います。その中で辛かったこともあったけど多くの学びを得ました。その「学び」をシェアして 1 人でもたくさんの人に知ってもらい、海外に少しでも興味をもってほしいと思います。そして、他文化にふれる楽しさを伝えてみたいと考えています。

そのために、プレゼンテーションの準備、伝わりやすいような説明の準備を進めていこうと思います。

私が出会ったホストファミリー

目次

- 普段の生活
- 食生活
- 親戚付き合い

ホストファミリー紹介

ホストマザー、ホストファザー、ホストブラザー2人

家族みんなとても優しく初日から気軽に話しかけてた

↳ とくにホストブラザーが優しく一緒にゲームなどしていた

とてもわかりやすく英語を伝えてくれた

↳ ゆっくり発音してくれ、聞き取れるまで何度も繰り返してくれた

普段の生活

平日の過ごし方

- 仕事や学校へ行くのは日本との変わりはない
- 学校が終わるのが日本よりも早く3時に終わる
- 放課後は、自分のやりたいことに使える時間が多い

日本よりも自由度が高い印象だった。

休日の過ごし方

1日目

- ホストブラザーのフットボールの試合を観に行った
- 家族でダボの自然を見に行った
- その後、みんなで夕食

家族でスポーツや自然など沢山の場所に行った

よりホストファミリーとの中が深まった日になった

日本と違うと思った点や驚いたこと

- 河川敷沿いのフットボールコートがとても大きい
- 北海道の様な広い土地が果てしなく続いている
- 毎食ホストファザーが料理を作ってくれていた

2日目

- 親戚とモーニング
- お昼は公園でBBQ
- 夜は別の親戚の大きな農場へ行った

沢山の親戚と会い沢山のダボ市の人との交流ができた

日本と違うと思った点

- 割と遠い親戚との中も深い
- 公園にBBQ用の貸し出し鉄板がある
- 田舎の広大な土地の規模が違う

全体で感じた事

学校へ行ったり親戚など人との交流が多く沢山のひとと話したが、英語が得でなくてもジェスチャーなど使う事で一緒に楽しむことができた。

みんな日本よりも落ち着いた雰囲気でもとても過ごしやすかった。田舎なので土地も大きくのびのび生活できる。

まとめ

今回のホームステイなどを通じて、ダボ市の文化を知るだけでなく、人と関わることの大切さを学びました。様々な人と交流を交わす中で、この人はこういう価値観を持っているなど日本人とは違う意見を聞くことでこれからより様々な視点で物事を見れるようになりました。

今回の派遣を通しダボ市だけでなく他の国へも挑戦してみたいと決意した

坂井 馴

～ダボ滞在を終えてこれからの自分～

私は今回の派遣を通じて沢山の人と交流することができました。

ダボの人の考え方や生活を体験的に学べた事で、派遣前より広い視点で物事を見る事ができました。日本では学べない事だったので行ってよかったと、心から思いました。また今回の派遣で、自分の英語力についてもより理解しました。軽い日常会話がもう少しできる程度の勉強をします。

来年には大学生になるので、大学2、3年生で留学を考えています。そのためにも英語の勉強を深め、日本と、海外との文化の違いなども重ねて学びたいです。

言葉の壁を越えて、広がる世界

東中学校 2 年 安藤 彩



学校体験・交流を通して、日本との違いから気づいたこと、驚いたこと、考えたことを紹介します。



01 学校生活の違い

St. John's College では、教室と教室の間の外空間にロッカーが並び、教科ごとに教室を移動するスタイルでした。毎時間教室が変わることや、持ち歩くカバンとロッカーに置いておくカバンを使い分けていることなど、日本とは違う仕組みがたくさんありました。時間割をノートパソコンのアプリで確認するなど、自分で予定を管理する場面も印象的でした。

02 授業・先生・自由な時間

授業では決まった席がなく、友達同士で机を動かしたり、自由に立ち歩いたりする場面がありました。一人一台の PC を使い、黒板ではなくスクリーンやホワイトボードを中心に授業が進みます。先生と生徒の距離が近く、フレンドリーで親しさと礼儀の両方がある関係も印象に残りました。



03 広さ・自然・交流から学んだこと

学校は約 40ha、訪れた動物園は約 300ha。どちらも日本ではなかなか想像できない広さでした。動物園では広大な敷地を生かして動物を身近に感じられるつくりになっていました。現地の人との交流では多様な考え方や文化に触れ、「日本ではどうだろう？」と考える新しい視点が生まれました。



10 日の体験から見たことへ

「自由」に見える学校生活の中にも自分で考えて行動するための仕組みがありました。違いを知ること、自分の学校や文化を再認識することにも繋がりました。



多様性



文化の違い



広い視野

違いを知ること、「世界が広がった」

10 日間の体験をこれからの自分の視野や行動に繋げ、
後世に伝えていきたいと思います。

～ダボ滞在を終えて、これからの自分～

安藤 彩

派遣を終えて、私は初めてのことに積極的に挑戦することができるようになりました。最初は英語でも話すことに緊張したり、不安になったりすることもありました。でも分からなくても自分から話してみることによって少しずつ伝える楽しさを感じることができました。

また、オーストラリアの学校で日本とはちがう授業や学校生活を経験し、新しい発見がたくさんありました。

今回の研修では、失敗を恐れずに行動することの大切さを学びました。

分からないことがあっても、まずは自分から行動してみることで、新しい経験や発見につながるようになりました。

また、言葉が通じないときでも、ジェスチャーをつかったり、知っている単語だけでも使ったりして、伝えようとすることで、相手とコミュニケーションをとることができました。

でもたまに、自分の気持ちを伝えたいのにわからずに戸惑ってしまうことがいくつかありました。なので、これからも英語を楽しく学んでいきたいと思いました。

そしてふだんの生活では経験できないことを自分の目で確かめ、実際に体験することで、自分の知らなかった世界を知ることができました。

日本とは違う環境ですごしたことで、今まで気づかなかったことにも気づくことができました。特に現地の人と関わる中で言葉だけでなく、相手の表情や行動を見ながら伝えることも大切だと感じました。

この経験を通して、挑戦する前から「できない」ときめつけるのではなく、まずやってみることが大切だと改めて思うようになりました。これからは、この派遣で得た違いも、学校でとりいれつつ、学校生活でも自分から積極的に行動し、今までやったことのないことにもたくさん挑戦していきたいです。

ありがとうございました。

オーストラリアと日本の違い

防災・災害

今次 花鈴

🍀 自己紹介 🍀

高校2年生 17歳 今次花鈴です！

15歳の女の子、弟、ご両親の4人家族（プラス🐶🐱）

ハワード家にホームステイしました

派遣で一番の思い出はホストファザー、マザーの料理がとてもおいしかったことです 特にフェアリーブレッドやマフィンなどのスイーツが絶品✨

また、ホストファミリーと一緒にハプキドー（日本の合気道にルーツを持つ韓国の総合武道）を体験できたことが特に思い出に残っています！

はじめに

災害・防災をテーマにした理由🔥

私は地震がとても苦手で小さな揺れやアラートに心臓がバクバクするほどです

そのため自分用の防災バッグを作って、枕元に置いて寝ています。頭のなかで逃げ方をシミュレーションしたり、全国のリアルタイム地震情報をいつもチェックしたり...家族にうざがられるほど地震を気にしています

そこで「怖がってパニックになるくらいなら、もっと正しい知識や対策を得て安心したい！」「オーストラリアからも防災知識を学べるチャンスでは？」と思い、このテーマにしました

ビビりだからこそ気づける備えを大切に、オーストラリアと日本の相違点や学んだことたくさんお伝えできたらいいなと思います！

オーストラリアと日本の比較

オーストラリア🐨

- ・森林災害・熱波・洪水・サイクロンが起りやすい
- ・みんな消火器を車に積んでいる ・防災バッグはない
- ・早めの行動、家の周囲の燃えやすいものを減らす

日本

- ・地震、津波が多い
- ・四季がはっきりしているため台風や洪水が起こりやすい
- ・ハザードマップ ・地域ぐるみの防災訓練 ・木造建築→耐震工事

まとめ

日本は起きたときにどう動くかを重視する印象が強く、オーストラリアは起きる前に防ぐ工夫を重視する印象がある！

私たちが取り入れることができる対策は2つ ✨

- ・家の中だけでなく家の周りまで防災
- ・早めの避難行動

→東日本大震災時、内閣府等の調査によると「すぐに避難した」人は全体平均で約5割という結果が見られました。日本人は慎重がゆえに避難するのが遅れがちで「自分は大丈夫」という考えや多数派同調性バイアスに左右されることもあります。もっと早く！早すぎたかも？くらいの勢いで避難できると思います。

最後に

今回の派遣を通してオーストラリアの文化や言語だけでなく、災害・防災の分野まで、楽しく興味を持って学ぶことができました！

ホストファミリーだけでなく、派遣生・引率者のみんなとも仲を深めることもでき、一生に一度の思い出になりました。ダボでは、多様な価値観を尊重する文化と視野を広げるための積極的な学びの姿勢を得る事ができました。この体験を糧に、これからの学校生活や新しい挑戦に繋げていけるようがんばります！

交換留学に行かせていただき、ありがとうございました 

～ダボ滞在を終えて、これからの自分～

今次 花鈴

まず、この 12 人のメンバーとタボへ行けてとてもよかったなと思います。

帰国子女の子、勇気がある子、たくさん話しかけてくれる子、みんながいたから、最後までこの研修をやりとげることができたと感じています。また、ホームステイ先や学校ではたくさんの気付きや文化の違いに出会うことができました。

言語の面でも、最初はただ話すだけだったけど、ジェスチャーや笑顔を意識して話すことを心がけると、さらにたくさんの人々と交流できるようになり、自分の自信につながりました。

10 月にはダボから派遣生が来るので、その時にたくさんの恩返しができるように美濃加茂市の魅力や日本の文化、おもてなしを伝えていきます。

また、今回の派遣を通して、英語がもっと好きになったので、勉強やコミュニケーションの面で生かしていけるようにします。



オーストラリア留学報告会

～笑いあり、まさかの事件あり!? 2週間の思い出の記録～



ホストファミリー紹介

ホストファザー：マイケル・バージ
ホストブラザー：チェイス・バージ(15)

ホストマザー：クリスティー・バージ
ホストシスター：ハーバ・バージ(10)



ホームパーティー開催!



チェイスの友達を招待



ご飯 & ビリヤードで大盛り上がり



日本のお菓子で交流タイム

グミ：人気No.1

柿の種：ポリポリ

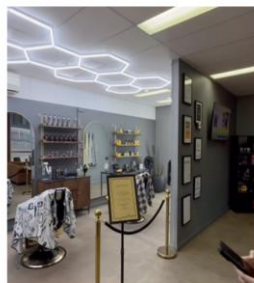
梅干し：まさかの衝撃



髪を切りに行っただけなのに...

✂ 髪が伸びてきたので散髪へ

AU どうせなら現地の美容室に挑戦!



完成した頭は...?

👉 ボサボサな髪の毛
Beofre



😱 予想以上のすごい頭になってた

😱 でもみんなが口をそろえて「クール」

After



波乱の幕開け...!?

1日目の夜、飛行機が飛ばなくなり、急遽羽田空港のホテルに泊まることに...

たくさんの思い出

家で開いてくれたホームパーティーは、あまり日本でやらないことを体験させてもらった。
美容室に連れて行ってもらいオージー風の髪形にしてみました。でも、この派遣いいことだけではありませんでした。



でも、この派遣いいことだけではありませんでした。

まさかの紛失、気づいたのは...

羽田空港のホテルで帽子と筆箱を紛失...!

羽田空港のホテル

帽子と筆箱を置き忘れ



AU シドニーのホテル

出発の瞬間に気づく...!

その距離なんと7800km

奇跡が起きた!!

財布は羽田空港の椅子に置いてありそれを誰かが届けてくれた!

財布：無事発見!!

帽子と筆箱：今も行方不明

結局、帽子と筆箱はそのまま見つからず.....

12

財布は使ったら鞆にしっかりとしまうこと!!

14

今度は財布が消えた...!?

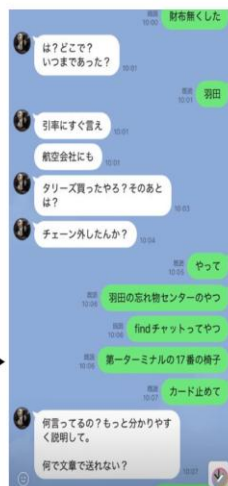
羽田空港からセントレアに到着した瞬間...

まさかの財布紛失に気づく!

「あと少しで帰れる...!」

と浮かれていて無くなったことに気づかず飛行機に乗っていた

当時のラインです



13

ご清聴ありがとうございました!

ちなみに、帽子と筆箱はどこかで張ってます

【派遣目的】

僕の将来なりたい「夢・職業」は英語を使う為、文法だけでなくコミュニケーションの方法を学んで夢に近づくきっかけになれば良いと思ったため。

【目的に対して】

現地の人と沢山コミュニケーションして、人との関わり方や生活について学ぶことができ、普通では経験できない有意義な研修にすることができました。

【今後どう生かすか】

今回実感することができたコミュニケーションの大切さを忘れずに、これからも多くの人と英語でコミュニケーションを行い、機会があれば美濃加茂とダボの交流がもっと盛んになるような貢献をしたいです。

～ダボ滞在を終えて、これからの自分～

山口 導人

今回の研修を通してたくさんの事を学ぶことができたと思います。

特に大きな学びとなった点は、2 つあります。

1 つ目は、集団で行動する時の大切さです。集団で動くためには、1 人でも輪を乱すような人がいることによって成り立たないものだと思います。また、輪を乱すことによって、集合をする時間に遅れたり大きな事故につながりかねないことがあると思います。集団で行動するには1人1人が協調性を持っているべきだと思います。今回の研修では、みんなが協調性を持って行うことができ、時間に遅れることも大きい事故もあらず、安全に10人の派生が帰ってくることができ、良かったと思います。

2 つ目は、日本とオーストラリアの文化の違いです。日本ではあたりまえだと思っていても、オーストラリアではあたりまえではないこと多々ありました。また、例えば、学校、食文化、言語などがあります。しかし、これらは、日本人でもこんな違いがあると現地に行っても分かるものだと思います。

しかし、今回の派遣で現地に行かなければ学ぶことができないような違いをたくさん見つけることができたので、コアラミーティングなどで伝えることがとくできたらと思います。

最後に、今回のダボ派遣で学んだことを生かすための機会として コアラミーティングがあると思うので学んだことを市民の方々に知ってもらえるように、また姉妹都市という関係を断ち切れることがないようにしたいです。今月の派遣を、今後の学校生活や将来に活かすことかできるようにしたいです。